



武並小防災スクール

～「自分の命は自分で守る」心と態度を
育てる防災教育の推進～



岐阜県恵那市立武並小学校
教頭 土屋 真由美

1 はじめに

平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災では、恵那市から多くのボランティアや学校の教師、行政職員が災害支援活動に赴き、現地にてそれぞれの立場から経験・知識を深めてきました。その見識を地域の防災力向上に活かすためには、コミュニティの中心である小学校を基軸とし、学校・地域・消防団・民間の防災団体・行政が連携して、防災・減災を考え、実施することが有効だという結論に至りました。

これを受け、武並小学校では、防災を自分のこととして考え「自分の命は自分で守れる子ども」を育てるべく、平成 24 年度から「武並小防災スクール」を長期的な視点で実施することになり、以来、防災教育の普及に取り組んでいます。

2 武並小防災スクールの取組

防災スクールのねらいを、

【ねらい】

災害時を想定した体験的な学習を通して、災害や防災についての知識や技能を身に付け「自分の命は自分で守る」という態度を養い、「家庭や地域の中で防災に役立つ行動ができる子」を育てる。

とし、継続的な取組となるよう、学年段階に応じた体験を設定し、6 年間で学習の深まりが生まれるようにしています。右上の表のように、低中高の 3 ブロックに分け、奇数年度と偶数年度で異なった体験をし、6 年間で 6 種類の全カリキュラムを修了します。

6 年間で防災スクールを卒業すると、「武並

6年間で防災スクールを卒業しよう！ （「武並子ども防災士」になろう）		
	奇数学年度	偶数学年度
低学年	煙体験 水消火器体験	地震体験車 避難姿勢(ダック演習)
中学年	ロープワーク 新聞スリッパ作り	防災クイズ 毛布担架演習
高学年	災害図上訓練DIG	非常食炊き出し訓練 三角巾応急手当演習

社会(地域)に出て役立つ人間の育成

6年間の系統性を踏まえた防災スクール

子ども防災士」に任命し、学んだことを、家庭や地域で防災に役立つ行動ができるよう宣誓します。



武並子ども防災士任命式の様子

これらの体験活動は、地域の自治会、保護者ボランティア、消防団、民間の防災団体（恵那市防災研究会）、行政と連携により継続できています。



地域関係者・防災団体・消防団の皆さん

3 地域に発信する防災スクール

平成 29 年度は防災教育を始めて 6 年目の節目でしたが、今年度は、教わるだけでなく、



【低学年 地震体験車 水消火器体験】



【中学年 毛布担架演習 ロープワーク】



【高学年 災害図上訓練DIG 三角巾応急演習】

自ら調べ、学び、発信する形へと転換しました。さらに、生活科や総合的な学習の時間における防災教育の時間を増やし、年間を通して各学年が段階的に実施できる年間カリキュラムを見直しました。

9月2日の「恵那市一斉防災の日」には、地域の防災訓練参加後、地域在住の小中学生、保護者、地域住民が参加し、各学年の防災学習の取組発表を実施しました。

4 家庭や地域との連携

保護者の参加促進と家庭内での防災活動のきっかけづくりを提供するため、「家族・地域防災会議」を4月のPTA総会後に実施しています。これは、自治会長又はPTA支部長の司会進行により、登校中に地震に遭遇したときの対応(学校へ行くのか家に戻るのか、家族の

- 1年:防災食の紹介と食べ方
- 2年:防災倉庫の紹介
- 3年:新聞スリッパ・ダンボールパーティション・ベッド作り(実演)
- 4年:毛布担架による救助、三角巾を使った応急手当て(実演)
- 5年:武並町の危機箇所と避難場所
- 6年:家具転倒防止や家庭での救助



1年防災食の紹介 3年パーティション作り

待ち合わせ場所はどこにするのか等)を話し合い、下のような「大地震がおきたら ぼく・わたしはどうすればいいかカード」に家族で相談しながら書き込む取組です。



大地震がおきたら ぼく・わたしはどうすればいいかカード

5 おわりに

平成30年3月の「防災まちづくり大賞」に引き続き9月に「防災功労者内閣総理大臣賞」という名誉ある賞をいただきました。この賞の名に恥じないように、防災力の高い人材を育て、地域と一体となって防災・減災に取り組む実践的な防災教育を今後も推進していきたいと考えています。